平成１７年　４月２８日

平成１６年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者　部・講座等名　第２部　総合学習開発講座

氏　　名　村川　雅弘

プロジェクトの名称	総合的な学習のカリキュラム開発力量向上のための校内研究モデルの映像化	配分予算額	1,775,000　円
プロジェクトの概要	学校現場では，現行学習指導要領およびその改正，平成14年1月の「学びのすすめ」等を受けて様々な教育改革が進んでいる。特に，特色ある学校づくりや総合的な学習の時間に関しては学校や地域，子どもの実態・特性を生かしたカリキュラム開発が強く求められており，また，学校現場は数多くの具体的な課題を抱え，その課題解決のための研究，教師の力量向上のための研究が必要とされてきている。 本講座は，平成14，15年度の「総合演習」において，学部生に対して現職教員である院生が学習促進者・支援者としてかかわる取り組みを試行した。その結果，学部生からは「院生から子どもへのかかわり方を学んだ」「院生から緊急を要する問題解決場面における迅速かつ適切な対応の仕方を学んだ」という声が聞かれ，また，院生からは「将来教師をめざす学生たちの思考様式や行動について理解ができた」といった声が挙がっている。 今回のプロジェクトでは，本学院生および学部学生に求められる資質能力，学校現場の特に総合的な学習のカリキュラム開発に求められる力量育成のための校内研究の在り方について研究をおこなうと共に，学部３年生の「総合演習」の一部グループにおいて，その校内研究モデルを擬似的に実施し，映像教材化を行った。現職の院生が管理職や研究主任の立場となり，学部学生が若手教員の立場となり，学校現場の問題解決ならびに力量向上のための校内研究を擬似的に体験した。 その過程において，２つの教材を制作した。一つは高知市立第四小学校５年の総合学習を対象に「総合学習の多面的・関連的授業分析」ワークショップ研修に関するものであり，もう一つは篠山市立今田小５年の総合学習の開発・実施責任者の酒井教諭を対象とした「ベンチマーク教師力量分析検討」ワークショップ型研修に関連するものである。制作された映像教材は，今後の大学院および学部の授業において教材として活用するだけでなく，鳴門市内の小中学校にパッケージ化し，配布する予定である。		
成果の概要	２つのワークショップ型研修およびその映像化に学生たちは積極的に参加した。授業を参観し（あるいは直接参観できなかった学生はビデオ記録を視聴し），そのことについてワークショップ研修で分析・検討を重ねる過程において，現職教師から総合的な学習に関する考え方や具体的な手だて，教師としての子どもへの接し方など多くの実践的知識を学んだ。また，ワークショップ後の分析グループ間の共通理解とその関連化を図るためのシンポジウムでは学部生がシンポジストとして主体的に発表し，その内容と方法について多くの現職教員から高い評価を得ていた。指導教官としても，鳴門教育大学の学生は機会を与えればいくらでも力を発揮するものであるということを改めて強く感じた。 具体的な授業参観と授業分析ワークショップ研修，その映像教材化を通して，学生たちは様々な力をつけた。特に，自分たちが参観し，かつ分析・検討した事実を短い番組に仕上げることにより，その事実（今回は総合的な学習のおよびその分析・検討結果）から中心となるものを切り取り，かつ自分たちの言葉で表現することが大きな学びを生み出したものと推察される。 アンケート調査や最終レポートより，「教科と総合学習の関連」「情報活用スキル」「相手意識」「達成感」を学ぶことができたと回答している。自分や友だちが成長した要因として，ある学生は「①しっかり綿密に計画された活動，カリキュラムであった。②最後の目標が明確であった。③本物にであったこと。④活動に意味，目的にあった。⑤みんながやる気，本気であった。⑥外部評価（サポート）があった。」の６点を挙げている。授業者の意図も十分につたわっていたと考えている。 学部生も大学院生も共に同じ目標に向かい一つのものを創り上げる過程の中にこの学習には自分たちの居場所があり，ビデオ作りというもの作りの中に，自分たちの居場所を創っていく活動が重なりあったのではないかと考える。また，総合演習の目標である「総合学習についての理解」も学部生は自分の言葉で語っていた。学部生は総合演習を通して総合的な学習を多面的に学び，その意義を実感したと考える。 しかし，目標に向かって全員が共通理解をもって活動に取り組み大きな達成感を感じることができたが，達成感には個人差があり，その点において課題が残った。学部生一人一人を見取り，手立てする必要性を感じた。また，カリキュラムにおける一つ一つの活動の質が高いために参加できなかった学生に対する後のサポートの重要性を強く感じた。		